

(別紙 2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 3 月 5 日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4270400403		
法人名	社会福祉法人 清和福祉会		
事業所名	グループホーム ゆたか荘ベルホーム		
所在地	諫早市長田町 2781 番地 1		
自己評価作成日	平成 23 年 1 月 23 日	評価結果市町受理日	平成 24 年 3 月 15 日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所 1 階
訪問調査日	平成 24 年 2 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

<p>職員は、利用者のペースを尊重しながらその方に合わせた関わり方ができるよう努めている。 月一度の職員会議やカンファレンスの開催にて、処遇の見直しなど職員同士の連携・情報の共有に取り組んでいる。 毎月ご家族にお便りを発行し、写真を添付する等して利用者の暮らしぶりや毎月の活動状況をお知らせしている 医療機関との連携を密にする事で安心・安全を確保し、症状の変化は都度家族に連絡している。 処遇の向上・職員個々のスキルアップを図るため、研修会へ参加している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

<p>当事業所は、諫早市郊外の高台に位置し、同一敷地内に各事業所が隣接され様々な連携がなされている。スタートがデイサービスで昭和 63 年に開設されており、地域に根ざした法人であるがグループホーム「ゆたか荘ベルホーム」の独自の地域での関わり方も検討されている。入居者はデイサービスに出向いたり知人の方が来られて交流されている。 週に 1 回専門知識をもたれている職員が音楽療法を实践されており懐かしい歌を唄い、入居者の楽しみにも繋がっている。また、月に 3 回理学療法士の訪問支援により、立ち上がり運動など職員も勉強され、毎朝軽い運動や機能訓練にも役立っている。小人数の勤務体制ではあるが職員の良好なチームワークによって理念の実践がなされ、今後も更に質の高いサービス提供に期待したい。</p>
--

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安全・健康・尊厳・処遇・リハビリの基本理念を追求する為、当法人の組織力・環境力の活用と地域力を活用し生活支援を行っている。	法人の理念の基、職員で「あかるく、たのしく、えがおで」を1年間の目標として実践されている。昨年、同法人内で職員の異動があったが、理念の理解もされて共有出来ている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアや実習生の受け入れ、近隣の小・中学校とはいつでもお互いが出入りできる交流体制をとっている。	地域とは法人全体のつながりがあり、交流の機会を大切に可能な限り地域の行事には参加されている。法人系列の保育園からお遊戯会や敬老のお祝い、年1,2回小中学校から施設訪問、職場体験の受け入れをされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトとして地域包括支援センターと連携を図りながら、認知症サポーター研修を行なっている。	/	/
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意見は全職員へ報告し、サービスの質の向上に努めている。	今年度の運営推進会議は法人の方針で年3回の開催となったが、事業所として年6回、奇数月開催を予定されている。会議の中で意見交換や情報など頂いている。	運営推進会議に入居者家族への参加を働きかけ、報告することが望まれる。また、年6回の目標が達成でき、サービス向上に活かしていけるよう期待したい。
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者へは、運営推進会議の他、役所へ出向き利用状況や今後の方向性などについて、話し合う機会をもっている。	管理者は小規模多機能と兼務されている、そのため市へ出向く機会が多く、その際情報の共有を行い、行政の方からの相談を受けることもあり、協力関係が築かれている。	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束については研修等により職員に意識してもらい、確認しながら処遇にあたるように努めている。利用者の場から離れる時は、他の職員に申し送りして連携を取りながら対応している。</p>	<p>身体拘束について法人全体の研修に参加されている。職員同士も言葉での拘束など理解し、日々入居者の様子を把握され行動を制限しないように努めている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止に関する研修を受けている。入浴等を通じ身体状況を観察し、虐待を見逃さないよう努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修を受けており、必要性のある方へは常に情報提供ができる体制にある。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、パンフレット・重要事項説明書等を用いて説明し、理解して頂けるよう努めている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置。面会時など家族との対話に努めている。また面会が難しい家族の方へも利用者の生活状況を知って頂けるよう月に一度「お便り」を送付している。</p>	<p>毎月おたよりの送付と共に家族の意見を伺う取り組みとしてアンケート方式を検討されていたが、実現には到らなかった。面会時の家族との会話を大切に意見を頂くよう心掛けている。</p>	<p>家族の意見や要望を拾い出す工夫として、事業所の行事参加の呼びかけや参加できない家族のアンケートに取り組みられ、運営に反映されることに期待したい。</p>
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃から職員とのコミュニケーションを心掛け、職員会議等で話し合う機会を設けている。</p>	<p>毎月1回職員会議を行ない、全職員が漏れのない入居者の日々の情報共有をされている。管理者は小規模多機能ホームと兼務されている職員や、夜勤専門の職員4名がおり意見を聞くように心掛けている。</p>	

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>無理なく働ける体制づくりの為に夜間帯は専門の職員を設けている。給与については、キャリアパスを採用し職員の意欲向上に繋がるよう努めている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修計画に基づく研修の実施や外部研修への参加を促し、職員の知識・技術の向上に努めている。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>諫早市グループホーム連絡協議会の研修会に参加している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前面接にて要望やこれまでの状況等をアセスメントしスムーズにサービスが提供できるよう職員間での情報の共有に努めている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事業所の性質を理解してもらおうとともに、家族の現状の介護負担や精神的負担を把握する事で問題意識を共有し安心して活用できるようお話している。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>直近の生活状態を把握する事により、必要なサービスの確認を行い、生活維持への支援ができるようにしている。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人がやりたい事・できる事を把握し、洗濯物たたみや作業活動などその方に合った役割づくりに努めている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族・本人が共に判断する機会が持てるよう心掛け、それを支援している。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人を取り巻く環境（地域・家族・知人・これまでの生活環境等）を確認し、馴染みの関係が維持できるよう努めている。</p>	<p>車椅子の入居者が多く、遠方の外出は困難であるが季節を感じていただける花見やドライブ、更には法事などの外出も主治医と連絡を取、家族の協力により支援に努められている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーションや体操、季節行事などの機会を設けている。職員は利用者同士の交友関係に配慮しながら一人ひとりが楽しんで頂けるよう努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も家族や関係者から状況を聞いたり、必要に応じて面会に出かけるなどしている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日頃から利用者との対話や言葉・しぐさから思いを汲み取る努力をしている。意思の確認が困難な方でも家族から関心事を聞くなど心掛けている。</p>	<p>入居者の思いや意向の把握は、日々の見守りで全職員が利用者からの信頼を得られ笑顔に繋がるよう努められている。居室で独りなられた後の行動にも気づきで温く接する心がけをされている。</p>	

24	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用開始時や日常の中でアセスメントを行い、これまでの生活歴や生活環境等本人・家族からの聞き取りなどで情報を得よう努めている。</p>		
25	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一日の生活状況を把握しその方に合った関わり方を心掛けている。また心身の状況や変化等は記録し、情報の共有に努めている。</p>		
26	10 <p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的なカンファレンスの実施にて、利用者の心身の状況・希望を把握しそれを介護計画に反映できるよう努めている。</p>	<p>毎月1回のカンファレンスの中で職員からの意見を取り入れ介護計画を作成されている。家族の了解を頂いているが意見や話し合いの機会は行なわれていない。生活・活動・精神等の状況は簡単な記録となっている。</p>	<p>日々の記録からモニタリングとアセスメントの繰り返しを行い、家族・関係者の関わりの中で、作成前に入居者・家族の要望を取り入れた介護計画の作成に期待したい。</p>
27	<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ミーティングや職員会議・個別記録の記入にて、利用者の心身の状況や変化を職員間で共有しながら日々の処遇を行っている。</p>		
28	<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>通院介助や電話による日々の生活確認、家族・親類・知人との絆の充実などに努めている。</p>		
29	<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>移動図書館の活用や当法人関連施設との交流、近隣の学校・駐在所などに法人全体で働きかけ、お年寄りの安否の見守りなどお願いしている。</p>		

30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族等と話し合いながら受診する医療機関を決めている。主治医との連携が取れるよう、家族承諾を得て医師へ情報提供を行い効果的な治療ができるよう努めている。</p>	<p>基本的には、入居時に協力医に変更していただいているが希望に沿って支援している。受診の場合は職員が対応され家族には受診後の経過報告をされている。また、近隣の歯科医院の協力によりケアに反映している。</p>	
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>准看護師を持つ介護従事者が、定期受診や緊急時の対応など日頃からかかりつけ医との連携を取っており、適切な医療対応ができています。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者の定期受診などで日頃から訪問、又は電話にて情報交換を行っており、いつでも相談ができる医療機関を確保している。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りはしていないが、主治医との連携を取る事で実施。事業所での対応能力についても家族・主治医に説明し理解を得るよう努めている。</p>	<p>入居時に看取りをしない方針を説明し理解されている。重度化した場合は随時家族や関係者との話し合いで事業所でできる最大限の支援と共に医療機関との連携がなされている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員全員が普通救命講習を終了している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地区消防団・近隣の学校等とホットラインを結び協力体制を作ると共に緊急時の避難訓練を行っている。(初期消火操法競技大会へも参加している。)</p>	<p>県央地区の初期消火訓練には毎年参加されており、緊急持ち出し書類は職員間で把握されている。避難訓練も消防署の協力の下、年2回行なっているが、自主訓練による万全の対策には至っていない。</p>	<p>敷地内に同法人の施設があるが非常災害時の備品・食料品の備蓄の把握、又は、事業所独自の備蓄が望まれる。また、定期的な避難訓練の実践を期待すると共に避難場所・避難時間等周知徹底に期待したい。</p>

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者の人柄をよく理解し、その方に合った声のかけ方・関わりができています。介護者の都合や慣れ合いの関係で個人の尊厳を忘れないよう、職員間で接遇のあり方を見直すよう努めている。	個人情報等は事務所で保管されており、日々の記録も安易に外部の目に触れないよう努められている。職員は常日頃の言葉かけにはお互い注意し合い適切な対応をされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との日常の会話や家族からの聞き取りなどで、希望や意見を聞きながら自己決定ができるように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間等は決まっているが、利用者一人ひとりのペースに合わせて何事も強要しないよう柔軟に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好んで着ていた馴染みの衣類等を家族に準備してもらったり、生活支援の中でさりげなく衣類を整えるなど対応している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	箸や湯飲み・お椀等一人ひとりが使い慣れた物を使用し、皆で顔を合わせ楽しく食事ができるよう配慮している。また片付けのできる方には手伝ってもらっている。	隣接した法人内の介護施設厨房で作られているが一人一人に対応でき手作りの梅干も提供されている。おわん・箸は独自の物を揃え、入居者は自分のペースで食事できるよう支援されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が個人別に嗜好調査を行い安全でバランスのとれた食事を提供し、個々に合わせた食事形態で対応している。食事・水分摂取量も毎日記録し管理している。		

42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>本人さんの能力に応じて、声かけ又は介助にて食後の口腔ケアを行っている。うがいが困難な方に対しては、口腔ケア専用の拭き取りで清潔保持に努めている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>オムツの使用は必要用最小限にすることを心がけ、排泄チェックを活用し個人の排泄パターンをを把握し必要な援助を行っている。</p>	<p>排泄チェック表を活用され職員は把握している。入居前にリハビリパンツ使用の方の行動の気づきから問題点を見つけ布パンツにパットと改善され自立に向けた支援をされている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェックや水分補給の実施。自然排便が少ない方に対しては主治医と相談し個々の状態に合わせた下剤の調整をしてもらっている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴への促しは、一人ひとりに合わせた声かけの工夫を行っている。曜日や時間帯はあらかじめ決められているが、入浴回数も含め検討課題である。</p>	<p>入浴は週2回の支援となっているが、時間帯は職員の勤務体制により希望に添えていない。体調変化により入浴できない方には清潔保持の為、清拭をおこなっている。</p>	<p>事業所の都合で決めるのではなく、入居者が入浴を楽しみ、気持ちよく過ごしていただけるようゆとりを持った支援に期待したい。</p>
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>食事や日中の活動を通して個々に合わせた生活のリズム作りを心掛けている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>介護従事者に准看護師がおり、主治医との連携のもと投薬管理をし、職員に対しても個人の病名や内服に関する情報を共有できるよう支援している。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日常生活の中で個人に合わせた役割作りや、利用者・職員が共同でできるお菓子作りや季節行事等の実施にて生活の中で楽しみを持って頂けるよう支援している。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>敷地内への散歩や、併設施設への訪問は個別に対応し気分転換を図っている。お花見やドライブ支援等、利用者の体調を考慮しながら行事計画に取り組んでいる。</p>	<p>車椅子対応の入居者が多く頻繁に外出は困難であるが、敷地内での散歩で外気に触れられて、畑に花を植える計画やお買物支援の取り組みも考えられている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理が難しいため、家族管理とさせてもらっている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者の人的環境が希薄化しないようできるだけ本人の希望や能力に応じた支援を心掛けている。家族へ毎月お便りを発行し、本人さんの生活の様子を写真等で見て頂いている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関・食堂には花を飾り季節感を出し、リビングはピアノ・ソファ・テレビなど団欒できる環境作りをしている。</p>	<p>広々としたリビング兼ダイニングは季節の花を飾り、ピアノ、テレビを備えゆったりと寛ぐ事が出来る ソファが設置され、入居者は自分の定位置で会話や趣味の編み物などを楽しまれている。車椅子対向可能な広い廊下、トイレ、浴室等も清潔で臭気もなく、居心地良く過ごせる支援をされている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにはソファを置き、利用者同士で団欒する場所の確保や、一人で過ごしたい時は自室に行くなど本人さんのペースを尊重している。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品（寝具・衣類等）や家族の写真など、必要なものや本人が希望される物は持ち込めるようにしている。家族からの聞き取り等で本人が大切にされていた物の把握が必要。	ゆとりある広々とした居室は洗面台が設置されている。馴染みの箆笥、ソファーを持ち込まれ、壁面は知人からの写真や好みのものを飾りそれぞれ個性ある居室になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に移動できる空間づくり、環境整備に努めている。利用者の能力の把握、できる事を引き出す工夫も必要。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない